

❖実施の際の基本ルール

全部門	<ul style="list-style-type: none"> ・美的に完璧に実施できる難度エレメントのみを実施 ・最低条件(p.9～p.10 参照)を満たさない難度エレメントは、評価点を得られないばかりか、実施審判員より減点される ・最低3つのグループから1個ずつ実施 ・規定数(男女シングル部門: 最大10個、ミックス・ペア/トリオ/グループ部門: 最大9個)の難度エレメントを実施 ・全て異なったファミリーから難度エレメントを選択(難度エレメントの反復は不可) ・「Cグループ」でプッシュアップ・ポジションまたはスプリット・ポジションで着地する難度エレメントは合計で3個まで実施可
ミックス・ペア/トリオ部門	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての難度エレメントは、選手間で接触することなく実施 ・全ての難度エレメントは、同時またはカノンで実施(身体の向きや方向は自由) ・全員が同じ難度エレメントを実施しなければならない。
グループ部門	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての難度エレメントは、選手間で接触することなく実施 ・最大2個の異なった難度エレメントは同時に1回のみ実施可で、難易度の低い難度エレメントが評価される。それ以外の難度エレメントはミックス・ペア部門やトリオ部門と同様に、全ての選手が同じ難度エレメントを同時またはカノンで実施(身体の向きや方向は自由)しなければならない。

ミックス・ペア/トリオ/グループ部門	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての選手が同じエレメントを同時に実施し、落下なしに最低条件を満たした場合のみ加点される
--------------------	---

3.4 アクロバティック・エレメントの実施

付録5:「アクロバティック・エレメントと禁止動作」に記載のアクロバティック・エレメントに限り、2個まで組み込むことができる(3個以上不可)。ミックス・ペア/トリオ/グループ部門では、同時またはカノンで実施(身体の向きや方向は自由)だが、2個以上の異なったアクロバティック・エレメントを同時に実施した場合、1回の実施と数える。

3.5 エレメントの連結

選手は、異なった「ファミリー」の2個または3個の難度エレメント、あるいは1個または2個のアクロバティック・エレメントと1個または2個の難度エレメントを、停止、躊躇または移行動作なく直接連結して2セットまで実施することができる。

❖実施の際の基本ルール

全部門	<ul style="list-style-type: none"> ・連結は、0.3～1.0の難度点を持つ難度エレメントのみ ・連結として実施された2個または3個の難度エレメントは、実施エレメントとしてカウントするため、これらの難度エレメントの反復はできない ・2個以上のアクロバティック・エレメントを連続で連結した実施は、禁止動作になるため不可 ・難度エレメントの最低条件が満たされていない場合は、加点なし ・アクロバティック・エレメントで落下した場合は加点なし ・連結に使用できる難度エレメントはAグループとCグループのみ
-----	--

3.6 リフトの実施[ミックス・ペア/トリオ/グループ部門]

リフトの定義: 最低1人の選手の身体がフロアから離れて、腰の位置が下で支える選手の肩の位置よりも上に持ち上げられた正確なポジションを見せることをいう。リフト開始時、下で支える選手は直立であること。

❖実施の際の基本ルール

- ・1回のリフトを必ず実施しなければならない(2回以上不可)。
- ・2個以上のアクロバティック・エレメントを伴ったリフトの開始は不可。
- ・リフトの高さが2人の身長(下で支える選手と持ち上げられている選手2人の両腕が万歳した状態の高さ)を超えてはならない。
- ・持ち上げられている選手の腰の位置が、下で支える選手の肩の位置よりも下になっている動作、または下で支える選手が動作の開始時に直立でなかった場合には、その動作はリフトではなく、「コラボレーション」と認識される。
- ・リフト実施中のプロペリング動作(空中位の段階への放り投げ動作)は可。ただし、持ち上げられている選手がプロペリング動作をする前に、異なった形や姿勢を異なった高さのレベルで明確に見せてからプロペリング動作をしなければならないため、直接空中位への宙返りを実施することは不可。
- ・リフト実施中の3/4回転宙返り以外の禁止動作は不可だが、アクロバティック・エレメントの実施は可。持ち上げられている選手がリフトされている最中にアクロバティック・エレメントを実施する場合には、アクロバティック・エレメントの実施回数にはカウントしない。リフトに関与しない選手のアクロバティック・エレメントの実施はカウントされる。
- ・トリオ/グループ部門では、下で支える選手あるいは持ち上げられている選手が複数いる場合でも、最低1人の選手がリフトの定義を満たしていればよい。
- ・リフト実施中のプロペリング動作で、空中位の選手が軸を問わない回転動作(宙返り動作やひねり動作、身体の旋回動作)を1/1回転を超えて行ってはいけない。

3.7 コラボレーションの実施[ミックス・ペア/トリオ/グループ部門]

ミックス・ペア/トリオ/グループ部門において、構成メンバーが協力して行う動きを意味する。「パートナーシップ」の1つであり、実施回数に制限はないがプロペリングは不可。